

あ と が き

保健管理センター報告書を毎年まとめる段階になると、いつも考えることがあります。まず、本センターは一年毎にはたして新しい展開をみせたであろうかと。今年度は何かを始める手懸りをえたであろうかと。そして、ある分野は進展なく、別の分野は確かに何かが始ったがまだ成果が少ないのではないかと……と色々と思うのです。

本年度は、たしかに手懸りを得ました。それは成人病予備軍である学生諸君の成人病危険因子を血液生化学的に検査できるようになったことです。でも、まず定期健康診断に血液検査を導入しなければ、小規模の検査器機のみでは多数の学生に対処できません。早く、血液検査導入によるスクリーニングをしたいものです。ともあれ、本センターが手段を得たことは前進です。

もう一つの展開は、エイズ予防に対する取り組みです。学生生活の開始時に、即ち、1年生にエイズ教育をすることの重要性が（この学年に大学生の性体験が急増する時期にあるため）とりわけ注目されています。本センターの役割と責任の大きいことは言うまでもありません。本文33頁～37頁に記された内容を、徹底したいものです。

ついで、継続中の課題である「高い血圧集団」の学生諸君の追跡は、少しずつ進展をみえています（本文44～46頁参照）。一方で、学生の精神的健康の維持・増進に関する木村講師を中心とする活躍もすっかり軌道にのってきた感があります。

最後に、本センターは、学生の健康管理に寄与する新しい事項については、少しでも開始すべきと考えています。平成4年度の血液生化学的器機の設置と、エイズ講演会開催等の際に頂きました関係各位の御支援に感謝申し上げますとともに、今後も一層の御協力をお願い申し上げます。

（中林 記）